

地域	現況・課題	今後の方向性・要望
南中学校	<p>○平成16～17年頃に発足した『南ライフセーバーズ』というチームがある。(PTA)</p> <p>○近年、活動が縮小化していたが、活性化しようと、今年白いベストを作った。これを着ている人を見たら南中の人だと認識してもらいたい。(PTA)</p> <p>○元々は生徒会が中心となって立ち上げた組織だが、高齢者の人達が引き継ぐ形となり、今年から活性化しようと PTA の方でやっている。今年再募集をかけたところ、保護者の方数名と地域の方数名の応募があった。(PTA)</p>	
	<p>○今年は訓練カードを復活させた。</p> <p>○9月2日に総合防災の日ということで、6町内で南中を会場に防災訓練を実施した。その日は部活を実施していなかったため、かなりの中学生の参加があった。</p> <p>○各町内会に、中学生にもできるだけ消火器やポンプの訓練に参加させるようお願いをした。</p> <p>○カードに証明をもらってきたら、参加したことを通信簿などに記録するようにすると生徒に説明した。</p>	<p>○部活の日程等もあるので、各町内会別々の日に防災訓練を実施するのではなく、市の方で日程を合わせるようにしてもらえれば、中学生ももっと参加しやすくなるのではないかと。</p>
	<p>○生徒達への配慮をありがたく感じている。(PTA)</p> <p>○訓練への参加の可否で成績に優劣をつけると、参加したい気持ちを持ちながらも部活動や家庭の都合などで参加できない生徒にマイナス点を与えることになるので、成績面での優遇はすべきではないと考えている。(PTA)</p>	<p>○褒めることで、彼らを評価してはどうか。たくさん褒めてもらった生徒たちは、災害時にはごく自然に中心的な役割を担う事になり、大人になった時にも褒めてもらった方の顔を忘れないと思われる。</p>
富田町	<p>○11月11日に防災訓練を行った。</p> <p>○南中から南小に避難所が変わった。</p> <p>○今回初めて南小で避難訓練を行ったが、参加者が初めて200名を越えた。215名の参加があった。盛大な防災訓練になった。</p>	<p>○子供からお年寄りまでの世代間交流がうまくできる方法を考えたい。</p>
	<p>○避難所が変わったため避難所に関する訓練、子供もお年寄りも楽しく参加できる訓練、この2つを考慮した訓練を行った。(自主防災)</p>	<p>○みんなが知らないことを上手く発信できるような防災訓練を行っていきたい。(自主防災)</p>
	<p>○これまでは災害が起きたら避難所へ行くという考えが常識だったが、そうではなく、自宅が無事だったら自宅で待機するようにとみんなに話した。市で耐震診断、耐震補強の補助を行っていることを紹介した。(自主防災)</p>	

	<p>○昨日、富田町で防災訓練をやり、避難所の確認をしたが、自分たちの地域の使えるスペースの説明がしっかりされていた。(民生委員児童委員)</p> <p>○自助、共助、公助、そして近所の話があった。とても印象に残っている。(民生委員児童委員)</p>	
南田町	<p>○先週、防災訓練を行った。</p> <p>○去年 HUG を行い、避難所生活の実態を知ってもらった。</p> <p>○今年は、消火訓練、三角巾の訓練を行った。また、防災倉庫にどんなものがあるかみんなに見てもらった。昨年市役所からもらった防災用の水、今年もらった『うみやあ水』を備蓄用として参加者に配った。</p> <p>○参加者は例年に比べて減り、86名だった。その内、小・中学生の参加が各3人ずつだった。</p>	
	<p>○町内の人を100人集めて、消防庁舎で HUG をやった。</p> <p>○やってみると様々な問題点が浮かび上がった。実際災害があったときに、防災倉庫の鍵を持っている人や校長、教頭が現場に現れるとは限らない。道路状況によっては避難所まで辿り着けるかわからない。車椅子の人はどうするか。</p>	○平和な状況ではなくて、最悪な状況を想定した訓練をやってみることが大切だ。
中田町北	○防災訓練が非常に後れている。	<p>○消火器にガタがきているので、まずは点検しなくてはならない。</p> <p>○災害時要援護者について、どうやって支援するか考えなくてはいけないと思っている。今後話し合いの機会を設けたい。</p> <p>●防災意識を変えるために、バス等で県の地震防災センターに連れて行ってはどうか。(市長)</p>
中央町	<p>○中学生・高校生にできるだけ協力してもらいたいと思っている。</p> <p>○実際、出席者は中学生1人だけだった。</p> <p>○広域防災で、日大の近くの東海道線のレールが地震で落ちないかどうか、橋は大丈夫かという質問があった。</p>	<p>○学校では出席者にもっと配慮してもらいたい。そうしないと出席者の数字が伸びない。</p> <p>●震災時には走っている新幹線が空を飛ぶ可能性が出てくるので、脱線を防ぐために新幹線の線路を二重にしている。三重県に『ユレダス』という地震警報システムがあり、地震の際に警報を発して新幹線が止まるような仕組みになっている。(市長)</p>

	<p>○三島長陵高校のグラウンドは、以前は使えると認識していたが、新幹線の乗客の避難場所に指定されていた。食料品などの物資は体育館にくる。そこから物資を運んでくる方法が考えられていない。</p>	<p>○すぐ近くに JR の研修センターがある。新幹線の乗客の避難場所をそちらにしてもらったらどうか。</p> <p>●新幹線の乗客の避難所として JR の研修センターを開放することは、市としてもお願いをしていきたい。(市長)</p>
	<p>○トイレの問題があり、話が進んでいない。</p>	<p>○リヤカーを各自治体に配布してもらいたい。食料品や毛布を運ぶのに非常に役に立つ。補助金もありがたいが、そちらの方が先決ではないか。</p> <p>●『自らの地域は自らで守る』ということが大切なので、それぞれの地域でリヤカーが必要なら買って、補助金の申請を市役所の方にしてもらいたい。(市長)</p> <p>●中央町は三島北高が避難所である。トイレも自ら用意してもらうが必要になる。町内で話し合っていたきたい。(市長)</p>
	<p>○近くの広い駐車場等を避難所として使おうという話をしている。</p>	<p>●中央町は避難所が遠いので、避難所生活をしなくても済むように、耐震補強などの対策をとってもらいたい。(市長)</p> <p>●この地域は建物が密集しているので、火が出たら大変である。火を出さないように呼びかけをしてほしい。(市長)</p>
<p>ウイステイリア 三島青木</p>	<p>○新築で5年経って6年目に入っている。ようやく自治会としての活動を始めた状態である。</p> <p>○防災というよりも、お隣さん同士がやっと顔見知りになってきた状況である。</p> <p>○防災倉庫は空である。今年初めてそのことを住民に公表した。</p> <p>○写真や回覧板を使って『自分の身は自分で守る』ということを呼びかけている。</p> <p>○個人情報の問題もあり、住民台帳というものがない。</p>	<p>○コミュニケーションをとることから始めようということで、七夕祭りを開催し、今後はクリスマス会を計画している。そういった活動を行うことで、個人情報への壁をなくして、住民台帳の必要性を明確にしてから理解してもらいたいと考えている。</p> <p>●マンションほど大地震が起こったとき大変なので、きずな作りをしっかりやっておかなければならない。(市長)</p>
<p>青木</p>	<p>○9月2日に6町内会合同の防災訓練を行った。</p> <p>○可搬ポンプ、三角巾、消火器訓練を行った。</p> <p>○備蓄食料の試食をしてもらった。</p> <p>○期限切れのキャンを配布した。</p> <p>○3. 11の影響か、参加者は200名強だった。小・中学生がたくさん参加した。非常に盛り上がった。</p> <p>○訓練の事前準備として、8月半ばに各組の防災補助委員を集め、可搬ポンプの訓練をした。</p>	

<p>玉川</p>	<p>○9月2日に防災訓練を行った。 ○今年は初めて安否確認訓練を行った。消火器、可搬ポンプ訓練、防災機器の説明をした。 ○安否訓練は159戸ある内の115戸、全体で約7割の参加があった。だいぶ盛り上がった。 ○安否確認は、町内会を5つに分け、9時～9時15分の間に指定の場所に集まってもらうという方法で行った。 ○参加者にはおみやげを渡した。参加者が多かったのはその効果かもしれない。 ○消火器、可搬ポンプの訓練は90名程度の参加があった。</p>	<p>●大宮町3丁目と見晴台は『黄色いハンカチ』を使った訓練を行っている。無事を知らせるために玄関のところに黄色いハンカチをつるして、安否を確認する方法である。そういうやり方も参考にしてもらいたい。(市長)</p>
<p>中田町南</p>	<p>○10月28日に防災訓練を行った。 ○まず、御殿川の清掃を行った。 ○消火器、炊き出し訓練を行った。約70名の参加があった。</p>	<p>○所有している消火器の6分の1が詰め替えできないものである。また、1回出すと止まらないで出てしまう種類の消火器が6本ある。それらを使って消火器訓練を行うと全員に行き渡らない。水の消火器はやっても意味がない。対策を考えてほしい。</p>
<p>南小学校</p>	<p>○子供たちの安全連絡はフェアキャストを使っているが、集中豪雨のときなど、市内一斉にフェアキャストを使うと連絡が届かず間に合わない。使うときは朝早くから送るようにするなど工夫している。 ○地震に関して、震度5弱までは大丈夫だと判断している。震度5強以上になったら、学校からの連絡がなくても、また安全か安全でないかに関わらず、保護者の方は必ず迎えにくるようにしておきたい。 ○3.11のときも、電気が届かなくて色々な情報が手に入らなかったゆえに避難が遅れて大津波で亡くなった方が多いと聞いている。</p>	<p>○情報をもらってから引き取りでは遅く、学校も周りの情報を得るのに時間がかかるので、連絡を待たずに引き取りに来てほしい。 ○校長会で状況別のシミュレーションを作成中である。シミュレーションにあわせた各学校での対応を考える。平成25年度末までにシミュレーション完成予定である。 ○校長会で、各生徒1食分の水と食べ物を用意しておこうという案がある。また、学校内で発電機やリヤカーなど必要な防災機器、用具の確認をしようかと話している。 ○また何か新しく決まったことがあれば、こういった集まりのときに発表していきたい。 ●学校には避難所に非常用電源、発電機がある。そして防災行政無線がある。ただ、無線は一斉なので個々で話すのは難しい状況にあるということを理解しておいてもらいたい。(市長) ○学校の避難所運営の対策として、学校主催の地域防災連絡会のときにHUGをやってみたらどうか。(富田町自主防災会)</p>

全体	◇訓練について	
	<p>○6町内会合同の防災訓練に参加したが、消防団を頼りにしてしまう場面が多くみられた。(消防団)</p> <p>○消防団は日頃から震災に備えて訓練をしているので慣れているが、他の人は地震がきてから何とかすればいいと考えている。(消防団)</p> <p>○地震だけでなく、火事、水害のことも頭に入れて考えてもらえれば、いい案が出てくるのではないか。(消防団)</p>	<p>○今後は各地域の自主防が中心になって訓練を行ってほしい。(消防団)</p> <p>○消防団はなかなかすぐには助けに行けないので、日頃から『自分の身は自分で守る』という意識を強く持っていてもらいたい。(消防団)</p>
		<p>●阪神淡路大震災のとき、消防団が事務所に向う途中で助けを求められ、事務所に行けなかった例がたくさんあった。消防団は事務所へ行って消防車で消火活動するのが仕事。建物の下敷きになってしまった人などがいた場合は、自主防災で助け出すことを認識することが大事。(市長)</p>
		<p>●東北の山田町町長が「津波で助かった人は日頃防災訓練に参加している人だった」と言っていた。訓練はとても大切なものである。(市長)</p>
		<p>○各町内会で、みんながAEDの設置場所を把握しておく必要があるのではないか。(民生委員児童委員)</p>
◇避難について		
<p>○避難しやすいよう、道路の整備が必要である。各家の入り口は歩道を削って坂にしてあり、その影響で歩道がガタガタである。高齢者が避難するときに危ない。(民生委員児童委員)</p>		
<p>○南小は富田町だけで使われるのか。(中央町)</p>	<p>●防災マニュアルの後ろに避難所一覧があり、そこに詳しく記載されている。(危機管理課)</p>	
◇防犯について		
<p>○10月16日に県警本部の生活安全課の人達や市の人達が来たときに、10年前に設置して故障している『緊急通報装置』について、代わりがあるかと聞いたら、ないと言われた。代わりがないというのはおかしいのではないか。(中田町北)</p> <p>○田町の踏み切りところに、防犯の装置があるが、何ヶ月も前から『調整中』という紙が貼りっぱなしである。なぜすぐに直さないのか。(中田町北)</p>	<p>●市の方から警察に話してみる。(きずなづくり推進室)</p> <p>※この発言後に、ある自治会長から『緊急通報装置』については、警察から撤去の方針であるとの説明があったという報告がありました。</p>	

◇地域の連携について	
	○子供に顔を見せる、地域でお互いに顔見知りになるのが重要だ。(南中 PTA)
○どこに誰が住んでいるかを把握し、助けなければならないということ子供たちはすごく敏感に感じている。(南中 PTA)	○積極的に顔を出していくことを促す活動が重要ではないかと思う。(南中 PTA)
○先日の校長会で市の危機管理課から、学校の方で災害弱者の避難スペースや、車で避難してきた人の対応などについて決めてもらいたいと言われた。(南小)	○学校だけでなく、地域のみinnで相談して決めていきたい。今後、話し合いの機会が持てると思う。(南小)
○市で防災に関して企画している会議はたくさんある。5月の自主防災組織の説明会、7月の防災リーダー研修会、6月の学校主催の地域防災連絡会がある。7月の研修会では HUG をやっている。(富田町)	
○避難所が南小から北高に移ったが、周りに顔見知りがいなくてショックだった。(中央町)	○お互いが顔見知りになるというのは重要だ。(中央町)
	○地域ごとにルールを決めるのではなく、避難所の使い方など避難所の地域で連携して理解し合う必要がある。(中央町)
	●行政の支援が及ばないところは、みなさんのきずなで補ってもらいたい。本当のきずなは『向こう3軒両隣』から始まる。まずはお互い顔見知りになって、校区全体できずな作りを行って連携をもっていってほしい。そこから災害に強い、住みやすい校区を作っていってもらいたい。それに対して行政ができることがあれば応援していきたいと思っている。(環境市民部長)